

(公社)日本都市計画学会関西支部 2025年度フィールドワーク
「神戸ウォーターフロントエリアの官民連携による活用
～国内初のみなと緑地 PPP～」報告書

1. 趣旨

かつて港湾機能が集中していた神戸のウォーターフロントエリアでは、2021年にポートミュージアムがオープン、GLION ARENA KOBEが4月にオープンするなど、新しい時代にふさわしい形で再生が進んでいます。神戸のウォーターフロントエリアでの取組に関わっておられる方々を迎え、プロジェクト紹介と現地視察を行うフィールドワークを開催しました。

2. 開催概要

【日 時】：2025年12月22日（月） 15：00～17：30

【場 所】：神戸ウォーターフロント機構（神戸市中央区）

【参加者】：一般20名、企画委員7名

【内 容】

(1) 開催の挨拶 企画委員会委員長 熊谷 氏

(2) 講演

「神戸のウォーターフロントエリアについて」

神戸市港湾局

「アリーナ基点での新たな神戸の魅力づくりについて」

株式会社 One Brigh KOBE

「エリアマネジメントに関する取組について」

株式会社神戸ウォーターフロント開発機構

(3) 参加者との意見交換・質疑応答



(4) 現地見学

アリーナ → TOTTEI 周辺



3. 参加者との質疑応答

Q：神戸市の人流データは検証されているか、動きが変わっていると思われる。

A：把握していない。

Q：アリーナアプリの登録はどれくらいあるのか。

A：登録者数は約6万ダウンロードに到達しており、40～50代が約40%を占めるなど、兵庫県内在住者を中心にコアなユーザー層の獲得が進んでいる。目標である10万ダウンロードに向けてはさらなる伸長余地があり、今後はアプリの価値訴求の強化と日常利用シーンの拡張により、着実な利用拡大を図っている。

Q：アリーナ利用者が約1万人往復する際の交通手段は何か。うまくさばけているのか。

A：三宮駅から徒歩が60%でバス利用が20～30%。イベント時は主にポートループや直通バス（神姫バス）。アリーナオープン前から交通計画を協議していた。イベントの開始2～3時間前、終演後1時間に増便している。

Q：音楽イベントの利用状況は想定どおりなのか。

A：キャンセルなどもあり当初想定から下がってはいるが、初年度でイベンターとの信頼関係を構築しているところであり、来年度以降稼働はアップする見込みとなっている。

Q：まちづくりのコンセプトとしては、観光なのか、商業利用なのか。

A：マンションは2棟あるので、コンビニなども必要。観光に特化するかということ、そうでもない。観光客にも市民にも貢献するエリアにはしたい。

Q：周辺の協議会とはどういう関係なのか。どのような関係を構築していきたいのか。

A：旧居留地の定例会は参加していないが、コネクト神戸とか様々に参加している。イベントをいかに地域と行うか、来た人をいかに巻き込むかを模索している。地域も行政も様々な活動を行っている。市民・行政・民間がまちづくりや活動の共有ができる場づくりをどのように構築いくかを考えているところ。

【参考・事後提供資料】（株式会社 One Brigh KOBE）

<https://www.youtube.com/watch?v=gCOGnMWWnuw&t=107s>